

学 位 論 文 要 旨

研究題目

Risk Factors for Distant Metastasis in Papillary Thyroid Carcinoma: Association with Lateral Lymph Node Metastasis

(甲状腺乳頭癌における遠隔転移のリスク因子：外側区域リンパ節転移との関連)

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学（指導教授又は医学研究科紹介教授 都築 建三）

氏 名 中村 匡孝

目的

本研究は、甲状腺乳頭癌における遠隔転移のリスク因子を明らかにし、特に外側区域リンパ節転移と遠隔転移との関連性を検討することを目的とした。

方法

兵庫医科大学（2013 年 1 月～2020 年 12 月）および四国がんセンター（2007 年 1 月～2018 年 12 月）で手術を受けた 537 例のうち、リンパ節転移を有する 283 例（男性 79 例、女性 204 例）を対象とした。年齢中央値は 58 歳（19～93 歳）、観察期間中央値 73 か月（1～152 か月）であった。中央区域リンパ節転移（N1a）群 164 例と、外側区域リンパ節転移（N1b）群 119 例に分類し、年齢、性別、pT 分類、腫瘍径、遠隔転移の有無について後方視的に検討を行った。また、遠隔転移に関連するリスク因子（年齢、腫瘍径、被膜外浸潤、転移リンパ節径、転移リンパ節数、転移リンパ節範囲、リンパ節節外浸潤の有無）について解析を行った。

結果

遠隔転移の発生率は、N1b 群で 20.0%（24/119 例）、N1a 群で 4.0%（7/164 例）と、N1b 群において有意に高かった（ $p < 0.001$ ）。多変量解析の結果、年齢 55 歳以上（ $p = 0.011$ ）、腫瘍サイズ 4cm 超（ $p = 0.034$ ）、レベル II+V へのリンパ節転移（ $p = 0.034$ ）が遠隔転移のリスク因子として有意に関連していた。また、N1b 群の 70.7%がリンパ節節外浸潤を伴っていた。

考察

甲状腺乳頭癌は一般的に予後良好な悪性腫瘍であるが、広範囲にリンパ節転移をきたす例や、遠隔転移にまで至る例も見受けられ、それぞれのリスク因子を適切に評価した上で治療戦略を立てる必要がある。本研究では、外側区域リンパ節転移のうち、特にレベル II、V への転移が遠隔転移の高リスク因子であることが示された。N1b 群の 70.7%がリンパ節節外浸潤を伴っており、N1b は節外浸潤と同様の臨床的意義を有し、高リスク因子となる可能性があることが示唆された。各ガイドラインや過去の報告では、外側区域リンパ節転移の影響についての詳細な分類はなされていないが、本研究の結果から、レベル II、V への転移がある場合にはより積極的な治療介入が必要であると考えられた。治療方針として、N1b 特にレベル II、V への転移がある場合、甲状腺全摘術＋側頸部郭清術を推奨し、術後の放射性ヨウ素治療を積極的に検討すべきである。

結論

本研究では、甲状腺乳頭癌における遠隔転移のリスク因子として、年齢 55 歳以上、腫瘍径 4cm 超、外側区域リンパ節転移（特にレベル II、V）が有意に関連していた。本結果は、今後の治療戦略において重要な指標となると考えられた。